アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

内閣文庫
七〇三二号
和書
一冊

305
2

極秘

昭和十三年七月十二日

時局特報

（第三十一號）

臺灣總督官房外事課

情報三

主要資料名略號

支那	Canton Daily Sun. D.	C. D. S.
	China Weekly Review. W.	C. W. R.
	North China Daily News. D.	N. C. D. N.
	South China Morning Post. D.	S. C. M. P.
	新聞報、日、	新聞報
	申報、日、	申報
	廣東七十二行商報、日、	廣商報
	廣州共和報、日、	廣和報
比律賓	Manila Daily Bulletin. D.	M. D. B.
	Philippine Herald. D.	P. H.
	Tribune. D.	T.
印度支那	Opinion. D.	O.
	Courrier d'Haiphong. D.	C. d. H.
暹羅	Bangkok Times. D.	B. T.
	Siam Chronicle. D.	S. C.
馬來	Singapore Free Press. D.	S. F. P.
	Straits Times. D.	S. T.
蘭領印度	Bataviasch Nieuwsblad. D.	B. N.
	Soerabaiasch Handelsblad. D.	S. H.
其他	Asie Française (Paris) M.	A. F.
	Economist (London) W.	E.
	France-Outre-Mer (Paris)	F. O. M.
	London Times. W.	L. T.
	New York Times. D.	N. Y. T.
	Nieuw Rotterdamsche Courant. D.	N. R. C.
	Statist. (London) W.	S.

(備考) D.- Daily, W.- Weekly

日.- 日刊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

臺灣總督官房外事課

一、歐亞航空香港昆明間新航空路（上海）……三
一、武漢攻、守と日華兩軍の作戰陣線
二、七・七の記念ー素食、無名英雄墓の建造等
三、法幣發行額三十億元、新に半元硬貨三百萬元鑄造……九
華僑……
（マニラ）
一、福建殘留僑民を閩西の開墾に送致
二、媚日病根治の特効處分
三、厦門の損害二億元以上
華僑……一三
（爪哇）
一、林主席昆明遷都に強硬反對
二、上海「申報」米人名義で近く復刊……一七
比律賓……
一、歷史的大勝利
二、日本漢口爆擊失敗す
三、傳染病蔓延
四、日本軍は麻醉藥を使用して戰勝を得んとす
五、塘沽改鑄のこと
六、日本は變化しつつあり……二五
印度支那……
一、佛蘭西病院一部破壞さる
馬來……
一、廣東の攻略……二七

支那

一、歐亞航空香港昆明間新航空路

香港昆明間の新航空路開設後最初に香港へ飛來した歐亞航空機は昨十四日昆明へ復航の途に就いた。昆明から廣西省柳州を經由し香港への最初の飛行は六月十三日完成された。該機搭乘者は操縦者、ラヂオ技師を除き同公司航空部長以外歐米人二名、支那人六名で、なほ多量の郵便物を搭載して居た。

昆明を午前十時に出發し、午後一時五十分に柳州に到着した。暫時滯在の後、午後三時飛行を再開し豫定通り午後六時香港に到着した。一、三五八粁の全航程が七時間五十分に飛翔せられた。今後この航空路は香港發昆明行は水曜日及日曜日に、昆明發香港行は月曜日及木曜日になされる筈。

（三八・六・一五 S・C・M・P・）

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙
（日本標準規格B.4）

上海

一、武漢攻略日華兩軍の作戰陣線

日本軍の武漢進攻の戰線は左記五線以外を出でないものと觀られる。

一、鄭州より遼し平漢線より南下する。

二、合肥、六安より信陽に進出し、鄭州南下の軍隊と會合の上南下する。

三、安慶を略取し楊子江北岸に沿ふて漢口に向ふ。

四、黃地より上陸し彭澤を經て九江を占據し、楊子江南岸に沿ふて武昌に向ふ。

五、澧陽に進み漢中（陝西）に出で、襄河（陝西より楊子江に流れ込む漢水一名漢江の襄陽以下の河）に沿ふて武漢に直下する。

如上は進攻線で平漢線以西の河南省轄より南下する。

（三七・六・一六―大美報）

臺灣總督官房外事課

漢口二十二日發ロイテル電―探聞するところに據れば、漢口の防衛線保衛新防線は左記の如く三線及び三線の兩翼南北に亦れてゐると云はれる。

第一防線―指揮官馮恩伯、司令部は許州に、陣線は河南省鞏縣（隴海線鄭州の西）より東南許州（平漢線）を經て固始に至るまで

第二防線―指揮官孫連仲、司令部は信陽に、陣線は第一道防線の後方にあつて、第一道防線と司じく東南斜めに平漢線の信陽を横切るものである。

第三防線―武勝關より漢口東方の麻城を經て楊子江南岸に至り、恰も半圓形を成してゐる。將來本線の南北岸に必ず大決戰あるを豫想し、本線には普通陸軍の列各種新式、他隊及び機械化部隊が增派されてゐる。

北面軍―指揮官整灌、司令部は洛陽に、陣線は隴海線鞏縣、開封一帶及び信以南大別山一帶まで、軍隊は先に蘭封、開封鄭州各地より退却の分と今まで隴海線西段警備中のものとを以て

編成する。

[illegible]一陣線は[illegible]の有力部隊を擁して湯子江に至る。[illegible]は左記兩隊に分れてゐる。

(イ)李宗仁を指揮官とし、司令部を固始に設け、津浦線退下の軍隊を以て平漢鐵道右翼の保護を潛行させる。

(ロ)張發奎を指揮官とし、司令部を九江に（後日　は麻城に移轉）

任務は湖江する日軍の進攻を抵禦せしむる。

両中國側よりの消息に依れば、武漢保衛の主軍は新式砲隊及び機械化部隊を除く外、陸軍六十ヶ師及び新鋭タンク車一千二百輛、ソ聯製七十二ミリと六吋口徑の野戰砲三百八十門其他の各國製野戰砲三百門を擁してゐると。

（二七・六・二二―大美晩報）

二、七七の紀念―素食、無名英雄墓の建造等

國民政府は本日全國に來る七月七日の[illegible]事變第一週年紀念日を期し、全國民一律に素食を勵行すべ[illegible]

臺灣總督官房外事課

を[illegible]命じた。[illegible]を殘すものである。

同電―當局は現に第一周七七全國紀念儀物の準備を進めてゐる。聞くところに依れば各都市に無名英雄墓を建造し、當日は各地とも紀念式を開催し、眞正午に三分間の默禱を行ひ、一般民衆に對しては各種方法を以て過去一年間に於ける壯烈なる抗戰の經過を知らせると同時に、今後一層團結堅強の努力を續け以て最後の勝利を博すべく激勵する計畫であると。

（二七・六・二〇―導　報）

三、法幣發行額二十億元新に半元硬貨三百万元鑄造

中央、中國、交通、農民四銀行の法幣發行總額は、戰爭前は十八億九千万元、戰爭後更に約一億元を發行し、總計約二十億元に達してゐる。此内華北には現在約三億一千三百万元、華中、南被占領區内には約三億元散在し戰爭發生後と雖も法幣の信用依然堅實なる故、民間に收藏せらるるものも不少の數に上り、此外戰禍

タイプライター用紙
(日本標準規格B.4)

に因る毀損、遺失又は燒失、流失のものも相當ある見込で、目前實際流通されてゐる金額はざつと十二億元ある。發行準備金は現金百分の六十と保證準備金百分の四十になつてゐるが、關憲の結果に依ると前述毀損遺失などの法幣を控除すれば、實際の現金準備は百分の七十以上になつて居り、信用一層鞏固を加へてゐる。

又財政部では經濟省に於ける通貨流通の圓滑を圖る爲、遽々にのみ通用せしむる半元硬貨を三百万元發行すべく先に米國桑港造幣廠に之れが鑄造を依賴した。銀行界の消息に據れば右半元硬貨の中百万元は已に米國より發送、來月上旬着荷、直ちに邊境各省に送付され、内地各省は勿論のこと、上海市にも通用を許さないから本市では貨幣を見ることは困難であると云はれる。

（二七・六・二一―大美報）

臺灣總督官房外事課

華僑

（マニラ）

一、兩建設留僑民を閩西の開墾に送致

庭閩綏靖主任公署では、昨年事變以來拘禁審問中逃出された漢奸、間諜達一味が、中國國籍恢復の登録申請を受理したるを何等制限監視を加へなかつた殘留臺灣籍民等と結托して、暗中後方攪亂の實國工作に活躍し、先般敵軍の廈門上陸に際しては內應通敵を以て敵軍の占據を容易ならしめたる失敗に鑑み、今回各地殘留の臺灣籍民（人數は本特報第二十九號に全當合計一、九〇〇人、廈門だけ一、三九五人とあり！譯者附記）を全部福州に護送せしめたる後、之を閩西の遠域一帶に送致し開墾及其他の生產事業に從事させることとなつた。

臺灣總督官房外事課

尙省政府各官署及主なる金融機關、商店、工場等を大安に移轉

後、閩西北一帶の人口は激增し、南平、沙縣、永安、連城、永春、德化、安溪等奧地各縣は住宅不足を來し家賃は遙かに昇騰したと。

（二七・六・一六―新聞日報―）

二、媚日症根治の特効處方

先日の紙上に浪漫生君が恐日病病後の攝生良法を發表されたが、此長期抗戰中、恐日病の再發豫防を必要とすると共に、媚日症の治療養生も忽かに附すべきものではない。記者は祖先傳來の媚日症根治特効處方を秘藏してゐるが、時節柄全國同胞に之を公開することとする。

一、病源―思想不正、頭腦簡單、名利に惑はされ、生を貪り死を怖れるによる

二、症狀―專ら敵人に媚を獻し、而して祖國を危害する種々の非行を逞しゅする

三、療法―俠骨を粉末にして熱血と和して呑服し、毎食前に忠肝

タイプライター用紙
(日本標準規格B.4)

一個と義胆一個を忘れてはならぬ

四、病癒後の養生！病癒の後は心を清め慾を寡からしめ、常に古今中外の英雄傳記を讀めば、永遠再發しないことを保證する。

（二七。六。八ー新聞日報）

三、廈門の損害二億元以上

敵軍は廈門占據後金屬類は勿論のこと、骨董、古物、[illegible]畫、[illegible]品及商店の商品等を掠取し、已に大球丸、廣東丸各汽船により數十回臺灣に輸送し、市民の損害は二億元以上ある見込である。

又敵軍は鼓浪嶼營局に向つて軍事訓練を加へると稱し、壯丁六千名の徵發を強要すると同時に、廈門、鼓浪嶼に於て五歲以上十歲までの[illegible]童を五百名拿捕し、已に臺灣及日本本國へ送致した。之等兒童は敵國戰死者遺族に渡し、戰死した壯丁の補償に供するさうである。

（二七。六。四ー新聞日報）

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙
（日本標準規格B.4）

華僑

（爪　哇）

一、林主席昆明遷都に强硬に反對

國民政府は名義上重慶に在るが、實際各重要官署は皆漢口に辦事處を分設してあり、政府要人も大部分は武漢に集中してゐる。最近津浦線戰局の急轉に因り武漢は脅威を免かれざるを以て、俄然國民政府以下各官署を昆明に移轉するの建議が起つた。ところが四川歸客談に據れば、我好々爺林主席（國民政府主席林森）は國府の昆明遷都に對し强硬に反對し蔣汪各要人に長文の反對通電を發した。其内容は重慶は萬山重巒の間に夾まれ、地勢、氣候から各方面を論じても決して日機の爆撃を怖れることはないから、絶對に遷都の必要はなく、大本營の所在地に至つては何等意見はない云々と稱してゐる。

臺灣總督官房外事課

元來林主席は一忠厚長者の譽があつて、從來黨、政、軍の大計に對し、極稀れに自分の意見を吐露するが、今回獨り强硬に昆明遷都に反對を表示した經緯は、聞くところに依ると、駐華各國使節からかつて我外交部に向ひ、外交部等を重慶に移轉するよりも國民政府全部を昆明に移轉されたき旨要求した由で、林主席は自國政府の移轉に關しては、須らく自主的決斷に依らなければならぬもので、友邦使節の強請要求を容認する必要はないと爲し、反對に及んだ所以であると云はれる。

（二七、六、八一新　報）

二、上海「申報」米人名義で近く復刊

我國で最も古くから發行し、其部數の多きことも全國各紙に冠する有名なる上海「申報」は、我軍の上海退出後敵人の檢査を屑しとしないで停刊し、漢口、香港兩地に於て發刊するの止む

臺灣に於つたが開くところに依れば、問紙は今回米國商經營に變更し、米國人辯護士某氏を發行人と爲し、已に工部局の發行許可を受け、近くまた上海でデビューすることになつたと。

因みに現在上海で發行する新聞にして、敵人の檢査を受ける義務のないものは、大美、華美、文匯、導報、譯報等十紙及雜誌數種ありて、報道事業は未だ嘗の面目を失はないが、新たに元老紙「申報」が復刊さるる曉には、文章報國に一層拍車をかけるものであると一般から期待されてゐる。

（二七・六・一一新　報）

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙

（日本標準規格B4）

比律賓

一、歴史的大勝利

上海六月三日ーU・p・通信に依れば開封を包圍し以て蘭封と黄河の中間にあつて支那軍のため苦戦してゐる土肥原師團を救援せんがため本日、日本軍は兵を蘭封の東西より集中し始めて居る。

現在日本軍の指揮官は蘭封の戦に一大決戦を豫期してゐるが、外國人は支那軍は京漢線の戦に備へるため許州の戦と同様に最優秀なる軍隊を使用せず撤退するものと見てゐる様である。又或る人々は支那軍專本部は左程蘭封、開封の戦は重要視して居らないが、出來るだけ日本軍に勢力を費させるため當地方に五、六大隊の決死隊を殘すものと見てゐる。

日本側の報告に依れば「日本軍は昨日砲兵の援助の下に杞縣（蘭封の南三十哩の地點）を占領した。斯くて日本軍の飛行機は杞縣の六哩の地點にある砲兵中隊を爆撃した。歸德の西、寧陵一帶に滯在せる一五萬の支那軍を敗退せしめたる後日本軍は歸德の南二十五哩の地點にある柳河集に居る五千五百人の支那軍を攻撃した」。

「日本軍が占領したる蒙城は支那軍に依つて再度占領された」と云ふことに對して當の日本側では之を否定してゐるが今回の戦に於いて憾まされたことは認めてゐる様である。一方支那側の報告に依ると「支那軍は廬州（合肥）地方の日本軍を撃退し龍潭地方への進撃を阻止してゐる」と云ひ支那政府は兵士の士氣を尚一層鼓舞するため支那歴史の一頁を飾る蠻兒莊の英雄達に最上の名譽ある勲章を授與してゐる。

（三八・六・四ーp・H・）

二、日本漢口爆撃失敗す

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙
（日本標準規格B.4）

上海六月三日ロイター通信で依れば「ノース・チャイナ・デイリー・ニュース紙は「日本機の爆撃は確實に失敗を喫す」と云ふ見出しをつけて漢口爆撃に就いて日本機十四機は確實に打落されてゐると主張してゐる。尚當時の模様に就いて日本軍の二十一機の戰鬪機は侵略を試みたが支那機四十機のため撃退され漢口で打落されたる日本の戰鬪機十二機と九江で打落されたる二機の爆撃機を發表してゐる。且つ最後に支那は單に二機を損失したのみであると報じて居る。

（三八・六・四―p・H・）

三、傳染病蔓延

上海六月一日―コレラの跳梁を極度に心配せる日本當局は日本軍が占領地域に之が豫防法として注射を强制的に施行すべきと とを告示してゐる。尚其他の外國人（日本人をも含む）にも同

様な方法で之が證明書を必要としてゐる。

一方居留民や佛租界住民はコレラの蔓延を極度に防いでゐる。現在居留地並に租界内部には約百人近くの患者が居り、事變のため避難所に入つてゐる人々の中には相當の患者が居る模様である。此の狀態に鑑み保健局では右線防法の一策として少くとも患者一千名以上は收容出來る組末を隔離病院を設立する計畫を進めてゐる。（三八・六・一一p・H・）

四、日本軍は毒藥を使用して戰勝を得んとす

東京輪が米國へ送つた手紙の一節を此處に照會すれば、

「日本軍は支那人を墮落させ以て士氣を沮喪せしめんがため阿片や其他の麻醉劑を我が善良なる支那國民にすすめてゐる。或る日本人の青年士官の如きは此の方法はもつと早くかうやるべきであり、支那を征服すべき方法をまだまだ考ふべきであると

主張してゐる。之について此の手紙を受取つた當のラ・ロー紙は日本人は此の地の支那人が阿片を飲む習慣あるのを目につけて自分達が征服した土地の多くの人民に此の麻醉藥を紹介してゐる。尚日本人に依て一日二十仙で雇はれて居つた苦力達は現在では一日十五仙の外に彼等の最も好む阿片が供給されてゐるのである。それ故彼等は阿片の供給が斷たれる恐怖のため日本に味方するわけである」と述べてゐる。又一方宋美齡は臺兒莊に於ける日本軍の敗北は卑屈なる阿片の使用を豫儀なくしたものであり戰爭が果して何時まで續くのか誰もが豫言することは出來ない」と述べ次いで

「日本は支那を二ヶ月以内に破ることを望んで居つたが支那人の士氣が相當に强固であつたがため攻擊も思はしくゆかなかつた」と宋美齡は語つてゐた。

（三八・六・二―p・H・）

臺灣總督官房外事課

五、塘沽改築のこと

北京六月十六日―U・p・通信に依れば日本軍部は塘沽の港灣改築のため百萬元を投資せんとしてゐる。

（三八・六・一七―p・H・）

六、日本は變化しつつあり

―トリビューン紙―

現在支那に於ける戰局の擴大につれて國内封鎖經濟を强行してゐるが、日本の國内情勢を見るに戰場に於ては頻りに勝利を博してゐるが國内に於ける經濟狀態の惡化を蔽ふべくも無い事實である。

之は無方針に戰局を擴大した自然の結果で、支那の各地に今後益々日本がその軍隊を派遣するに從つて、國内狀態の惡化は一層熾烈さを加へることであらう。

タイプライター用紙
（日本標準規格B4）

日本が非常に逼迫してゐるといふことは政府が屢々國民に對して警告を發してゐる事實によつて明かである。

此等の聲明によれば「日本政府は今次事變の意味及規模に關しその認識を新にせるものであり、事態に對處するため、國内に於て精神及物質兩方面の再組織を爲さんとするものである」と述べてゐる。

此の目的のため内閣に於ける重要地位にある大臣の更迭が行はれたが、之は人物其物の才能如何に依るのではなく、現在の時局により即應するやうな人物が選ばれて居る。

殊に外務大臣廣田弘毅氏の更迭は日本の對外政策の根本的方針を變更するものとして重要視すべきである。

此の變更はデモクラシー國家にとつて重大なる關心を有すべきで、日本の政策に對應すべき新政策が採られることとならう。

（三八・五・二六ーT・）

臺灣總督官房外事課

印度支那

一、佛蘭西病院一部破壊さる

日本軍は再び野蠻的激烈さを以て廣東を爆撃した。彼等は空爆に拍車をかけ死者二千名以上を出した。

佛蘭西病院ボール・ヅーメもその餘波を受け、院長タレ（Talleo）氏は輕傷を受けた。

二名の支那人の死者を出し且つ又多數負傷したが、醫師リヂーバーシュは無事であつた。

損害は百五十萬法と見積らる。

手術室及レントゲン室は破壊された。

（三八・六・一四ーL・O・）

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙
（日本標準規格B4）

馬來

一、廣東の攻略

廣東攻略は曩に松井大將に依て主張せられたが之は中・北支に於ける支那側抗戰が意外に頑强であつた爲め延期の已む無きに至つた。

過去數ヶ月間に亘つて日本海軍は來るべき南支攻略の準備を進めつつあり、福建・廣東の主なる島嶼は日本海軍に依て占領せられ海軍根據地又は飛行場となつてゐる。

日本側の目的は先づ廣九線並に新自動車道路の遮斷にあるものと思はれるが日本側は國際問題の紛糾を承知して香港に近い處で之を遮斷する意圖にして之と同時に澳門附近に於て上陸珠江の西側を進攻するものと考へられる。

廣東を珠江から乃至之に沿ふて攻撃することは困難であり日本

臺灣總督官房外事課

海軍の汕頭沖集結から見て日本軍の汕頭上陸も可能性がある。

廣東省沿岸への上陸は結局廣九線の遮斷を目的とするものであり、廣東省攻略の主力は結局福建省から進攻すべく從て福建省の攻略が先決問題となる厦門の占據は其の第一歩であつた。日本軍は福建省から廣東省東部を通て粤線を遮斷するだらうか、比較的良好な道路は日本の機械化部隊の進撃を可能ならしめるだらう。廣東軍は之に對し上海事件に於けると同樣頑强な抵抗を試みるにとと思はれる。

（三八・五・三〇－S・T・）

タイプライター用紙
（日本標準規格B.4）